

子大学、金沢学院大学、京都嵯峨芸術大学、大阪成蹊大学、近畿大学、倉敷芸術科学
大学、崇城大学、和光大学、東京工芸大学

D) 応募方法・・・芸術系(実技部門)の大学を通じて以下の書類を提出

書類:願書、推薦書、在学証明書、成績証明書、作品写真

E) 受付期間・・・平成 18 年 5 月 10 日～平成 18 年 5 月 19 日当日消印有効

F) 応募状況・・・大学生 20 名(32) 大学院生 69 名(57) ()内は 17 年度数

G) 選出・・・応募書類を基に奨学生選考委員会にて審議選考の上、理事会で決定
選考委員会

➤ 開催日 平成 18 年 6 月 10 日(土) 13:30 ～ 15:00

➤ 出席者 久谷政樹委員長 井上隆邦委員 徳山豊委員
野呂芙美子委員 長谷川文雄委員 全員

➤ 選考方法

【大学生】各委員より3～4名ずつ選出し、過半数を超えた候補者2名を選出した。

【大学院生】各委員より3～4名ずつ選出し、過半数を超えた候補者2名を選出した。

➤ その他

○改善点・・・願書の記載事項の改善(貼付作品写真の説明等の充実他)

参考資料として VHS 貼付許可

○選考基準の確認・・・創作意欲等、実力、将来性に重点を置く

○次年度に向けた改善案・・・インスタレーション作品写真添付資料の改善

H) 奨学生決定 第 26 回理事会、評議員会において決定

➤ 【大学生奨学金給付者】

村瀬 都思(むらせ とし)

武蔵野美術大学 造形学部 日本画学科 4 年(21 歳)

(選考事由) 日本画の伝統的な技法を用い、偶然性が生み出す自由でのびのびした表現で現代社会を鋭く凝視している点が評価された。

杉浦 見奈子(すぎうら みなこ)

東京造形大学 造形学部 美術学科彫刻専攻 4 年(22 歳)

(選考事由) 子供の頃の記憶をもとにイメージして表現された本作品は、確かな基礎技術のもとに、具象と抽象のバランスも良く見事に構成されている。

➤ 【大学院生奨学金給付者】

飯沼 春子(いいぬま はるこ)

東京芸術大学 美術研究科 文化財保存学専攻 1 年(29 歳)

(選考事由) 天然顔料、金銀箔、金銀泥による古典技法による表現は、保存修復の専攻で学んだ模写の技術のもとに、生命力のある作品として仕上がっている。

野原 邦彦(のはら くにひこ)

広島市立大学 芸術学研究科 彫刻専攻 2 年

(選考事由) 現代日本の若者文化を伝統的な木彫技法で表現した作品は、手の

ぬくもりを感じさせ、先端芸術にない新鮮な印象を与えた。

1) 奨学金給付・・・通知後、本人の口座に、7月と10月の2回に分割して給与

以上

2. 第14回助成顕彰事業(寄附行為代4条(1)(3)(5))

【10,049,769円】

○実施概要

A) 対象、受賞者数、給付金

(ア) 日本文化藝術奨励賞 2名以内 奨励金1件100万円

○ 日本伝統文化奨励賞

○ 日本現代藝術奨励賞

芸術・伝統文化の活動(研究)において、すぐれた才能・能力が認められ、今後、更なる活躍が期待される者を対象とする。年齢・国籍は問わない。受賞1年後に活動の近況報告を行う義務がある。

(イ) 日本文化藝術振興賞(団体も可) 2名以内 賞金 1件150万円

○ 日本伝統文化振興賞

○ 日本現代藝術振興賞

優れた芸術・伝統文化の活動(研究)により、芸術・伝統文化の振興、また、新しい方向性を示唆するなどの著しい功績をあげた者。あるいは伝統文化、伝統芸術の維持伝承および振興を支えながら、顕彰の対象として顧みられることのなかった各分野(各職能分野等)について注目し、隠された優秀な人材を発掘し顕彰する。

(ウ) 外国人留学生・研究者助成金 2名以内 助成金1名100万円

日本の伝統文化の技術を修得、または調査研究をするために日本に留学・滞在しているか、6ヶ月以上の留学・滞在を予定しており、日本の芸術・伝統文化への理解、国際交流、普及に貢献することを期待される外国人。原則として40歳未満。受給後に活動の近況報告を行う義務がある

B) 応募方法

(ア) 日本文化藝術奨励賞・・・指定の応募書類(申請書、推薦書)と資料

(イ) 日本文化藝術振興賞・・・指定の応募書類(推薦書)と資料

(ウ) 外国人留学生・研究者助成金・指定の応募書類(申請書、推薦書2通)と資料

※資料は5点以内(ビデオ、掲載紙、ポートフォリオ等)

C) 募集 告知、応募要項の送付

告知 :平成18年9月 本財団のホームページ

広報活動:ちらし、ホームページによる告知、専門誌・関係誌にリリース、

発送先 :美術館、博物館、大学、大使館、海外日本文化研究機関、評論家、助成顕彰受賞者、会員等、資料請求者 発送件数 約1200件

D) 受付期間 平成18年11月1日～平成18年11月30日 当日消印有効

E) 応募状況 59件()内は第13回応募数

第14回日本文化藝術奨励賞

日本伝統文化奨励賞・・・・・・ 9件 (8件)

日本現代藝術奨励賞・・・・・・18件 (6件)

第14回日本文化藝術振興賞

日本伝統文化振興賞・・・・・・10件 (6件)

日本現代藝術振興賞・・・・・・11件 (4件)

第13回外国人留学生・研究者助成金・・・・・・11件 (10件)

F) 選出・・・申請書、推薦書、資料を基に助成顕彰事業選考委員会にて審議選考の上
理事会で決定

選考委員会

➤ 開催日 平成18年12月27日 13:30～16:30

➤ 出席者 芳賀徹委員長 金子賢治委員 大島賛都委員 栄久庵憲司委員
木戸敏郎委員 酒井忠康委員 観世榮夫委員

➤ 書類出席者 中村昌生委員

➤ 選考方法

○事前に選考委員に全応募者の資料の要約を送付し、閲覧を依頼。

○選考委員会当日、応募者から提出されたビデオテープ、CD、ポートフォリオ、論文集、
カタログ、パンフレット、著書、掲載書籍等を視聴及び回覧した。

○各委員から応募者に対する意見(当日出席できない中村昌生委員から事前に
提出された選考意見を含む)を出し合い、委員長が意見を集約し各部門ごとに
選出候補者を絞り、さらに審議し各委員の同意の上で、選出者を決定した。

➤ その他審議内容

○今年度は、ちらしを印刷し配布等した成果が出て、応募者が増え内容も
良かった。若手の優秀な映画監督が出てきているが、この分野の応募者
がこれまでにないので、さらに認知度を高めるための広報活動を行う。

○外国人助成金給付者のその後の活動の把握に努める。

G) 受賞者の決定 第27回理事会、評議員会にて決定

○第14回 日本伝統文化術奨励賞 賞金 100万円

亀井 広忠(31歳) 能楽師 葛野流大鼓方／能楽

推薦者:野村萬斎(能楽師)

事由:幼少の頃より祖父・父について修行を始め、川崎九淵のもとで古典の様式を
身につけた。現在もその様式を守り続け、また、新しい試みにも意欲的に取り
組み、その実力も抜群である。

○第14回 日本現代芸術奨励賞 賞金 100万円

武智 由香(34歳) 作曲家／音楽・作曲

推薦者:松平頼暁(作曲家／JSCM 国際部長)

事由:楽器など伝統的なメディアを使いつつ、音楽理論については、フランス・
英国において最新の音楽概念を取り入れ、21世紀の新しい音楽の創作
を目指している。また、日本の音楽素材、理念と現代音楽との融合を意

欲的に試みるなど、将来を期待される作曲家である。

○第14回 日本伝統文化振興賞 賞金 150万円

室瀬 和美(56歳)漆作家／漆工芸

推薦者:内田篤呉(MOA美術館副館長)

事由:奈良・平安時代からの古典的な技巧を基盤に据えて、非常に品格の高い現代漆芸の世界を作り出した功績は非常に高く評価できる。

○第14回 日本現代藝術振興賞 賞金 150万円

杉浦 康益(57歳)作陶家／作陶

推薦者:清水(世田谷美術館 学芸員)

事由:コンセプチュアルアーティストとして、70年代に活躍していたが、その後、ものづくりの基本に立ち戻り、いわば超絶技巧を発揮し、物質の詩学の世界を作り出した。その作品は、自然の生命力を作品に移し変え、自然の迫力がそのまま表現されており、高く評価できる。

○第13回 外国人留学生・研究者助成金 一人につき賞金 100万円

金 峯洙(30歳) 男 国籍:大韓民国

長岡造形大学大学院研究科造形専攻博士課程2年

専門分野:造形専攻(視覚デザイン)

推薦者:鎌田豊成(長岡造形大学学長)、洪起(長岡造形大学教授)

事由:家紋を自国に展開するという着眼点、志がよい。研究が非常に集中的に行われ、日本家紋の特徴を鋭く捉えており、能力の可能性を感じる。

SABINE STADLER(29歳) 女 国籍:スイス

東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻博士課程

専門分野:上方舞

推薦者:古井戸秀夫(東京大学教授)、木下直之(東京大学教授)

事由:上方舞の研究にあたり、単に傍観者としてではなく、自ら演者となるなど、実際的な研究を意欲的に行っている。様式・流派・歴史の研究が多い中で人間工学的なアプローチを行っており、また、彼女の出生から見て、最も遠く、最も繊細な世界に入り込んでおり、日本人ではできない研究が期待できる。

H) 第14回日本文化藝術振興賞授賞式典の開催

◇ 開催日 平成19年3月27日(火)

◇ 会場 明治記念館

◇ 来場者数 約200名

◇ 内容 贈呈式、受賞者・受給者の紹介及び、祝宴

I) 賞金の授与・・・贈呈式終了後、4月に指定の口座より振り込む

3. 文化藝術普及活動事業(寄附行為代4条(2)(5)(6))

【34,583,361 円】

(1) 文化祭「杜の中の伝統文化祭」

(21,721,876 円)

事業名 : 創造する伝統「杜の中の伝統文化祭」

主 催 : 財団法人 日本文化藝術財団

助 成 : 日本財団

特別協力: 明治神宮

後 援 : 文化庁、東京都、渋谷区教育委員会、江戸川区、江戸川区教育委員会、
葛飾区教育委員会、江東区教育委員会、港区教育委員会、
京都造形芸術大学、東北芸術工科大学、読売新聞東京本社

期 日 : 「藝の達人」 平成 18 年 7 月 7 日(金)・8 日(土)

「こどもの杜」「体験の杜」

平成 18 年 7 月 15 日(土)～7 月 17 日(月/海の日)

「秋庭歌一具」平成 18 年 7 月 22 日(土)

「幻想の杜」 平成 18 年 7 月 23 日(日)

会 場 : 明治神宮内苑芝生広場、神宮会館、参集殿、桃林荘、隔雲亭

監 修 : 川口幹夫

動員数 : 延べ 4700 人

プログラム	(1) 藝の達人	
日 時	7 月 7 日(金)、8 日(土) 17:30～20:00	
会 場	明治神宮内苑 桃林荘(書院建築の広間)	
参加費	一般 5000 円 大学生 2000 円 高校生 1000 円	
対 象	一般、大学生、高校生	
内 容	邦楽の達人の演奏を、日本家屋の中、間近に、音響機材を使用せず少人数で鑑賞する。呈茶つき。	
演奏者	7 月 7 日	7 月 8 日
	尺八 青木鈴慕(人間国宝) 青木彰時、上條妙子、 青木麻衣子	常磐津節 常磐津一巴太夫(人間国宝) 三味線 常磐津巴瑠幸太夫
参加費	68 名	61 名

プログラム	(2)こどもの杜・体験の杜
日 時	7 月 15 日(土)、16 日(日)、17 日(月・海の日)10:00～17:00
会 場	明治神宮内苑 文化館前広場(雨天会場:参集殿)
参加費	無料 (一部実費徴収 盆栽、飴細工、風鈴)
対 象	こどもを中心とした親子、全年齢層

内 容	日本の芸能、文化を、見て、聞いて、触れて、作って、遊んで、食べて、 こどもから、お年寄りまでそれぞれ楽しむことができる催事。
こどもの 杜	桶胴太鼓の演奏:「武-SON」(17日)、江戸の曲芸:江戸太神楽丸一仙 翁社中、江戸糸操り人形:上條充(15日16日)、歌う紙芝居:大須賀ひで き(15日16日)、紙芝居:劇団アドック、貝殻遊び;清水寛枝、あめ細工: 青木道雄、針金細工:青木喜、高校生の和太鼓クラブ(17日):都立大江 戸高等学校、都立江北高等学校、日体荏原高等学校
体験の 杜	茶道:茶道裏千家社中、盆栽:日本盆栽協会講師、風鈴絵付け:篠原風 鈴本舗、神宮の杜の探検:NPO「響」(16日)、 (17日のみ)まゆ玉人形:(学)清水学園、狂言:大蔵流茂山七五三、 香:伊達晟聴、浴衣着付け:(学)専門学校清水とき・きものアカデミア
参加者	延べ 約 3200 人

プログラム	(3) 武満徹の雅楽 野外公演
日 時	7月22日(土) 19:00～20:30
会 場	明治神宮内苑 野外特設会場
参加費	一般 3000 円 大学生 1000 円 高校生以下 500 円
対 象	一般(就学前の児童を除く)
内 容	武満徹の雅楽「秋庭歌一具」全曲を、作曲家の意図を探りながら、音に 最新の配慮を施した野外公演と、武満徹と親交のあった演奏家の話
出演者	演奏:伶楽舎、 お話:芝祐靖、宮田まゆみ、山口泰範、聞き手:永井秀文 司会:古谷敏郎(NHK アナウンサー)
参加者	650 人(招待者含む)

プログラム	(4) 幻想の杜 粋と雅と感動の野外公演
日 時	7月23日(日) 18:30～20:30
会 場	明治神宮内苑 神宮会館(雨天のため)
参加費	一般 3000 円 大学生 1000 円 高校生以下 500 円(ただし保護者1名に つき中学生以下1名無料)
対 象	こどもからお年寄りまで
内 容	家族で楽しめる、感動する日本の伝統芸能
出演者	雅楽:「壺越調音取」「胡飲酒序・破」「酒胡子」 伶楽舎 獅子舞:「寿獅子」江戸里神楽若山社中 狂言:「蝸牛」 茂山七五三、茂山千三郎、松本薫 司会:古谷敏郎(NHK アナウンサー)
参加者	700 人(招待者、こどもを含む)

(2) 丸の内元気文化プロジェクト参加企画

(6,310,967 円)

◎ 助成顕彰事業受賞者による企画

日詰明男:造形作家 第5回日本現代芸術奨励賞受賞

東野珠実:笙演奏/作曲家 第6回日本伝統文化奨励賞受賞

事業名 : 「美の数列 フィボナッチ タワー」

企 画 : 日詰明男

開催期間: 平成18年10月5日(木)～10月14日(土)

開 場 : 丸ビル 1F マルキューブ、丸ビルカフェ ease

主 催 : 財団法人 日本文化藝術財団

特別協力: 三菱地所株式会社

協 賛 : ダイキン工業株式会社

後 援 : 京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

協 力 : 丸ビ、art space kimura ASK?、馬場商工株式会社、株式会社京葉レヂボン、
有限会社オアシス、越川竹材工業

来場者 : 展示会場 1日2万人の人が行き交う広場

演奏とトーク 1時間公演を2回 毎回1約100名

入場料 ; 1F マルキューブ 無料、丸ビルカフェ ease(飲食費実費)

概 要

○日詰明男による“フィボナッチ タワー”の展示と、“音の実験工房”

展示期間:10月5日～14日 11:00～21:00(土・日・祝日 11:00～20:00)

※音の実験工房:10月7日(土)～14日(土)

会 場 :マルキューブ、FIBONACCI CAFÉ、

※公開実験:フィボナッチ タワー前(17:00～18:00)

タワー :孟宗竹 下辺直径3.0m、高さ7.5m、重量約800kg

内 容 :黄金比に基づいて編み上げた150本の孟宗竹によるタワーの展示。フィボナッチ数列に基づいて作られた「水の音」「鐘の音」をタワー内から、マルキューブに静かに響かせた。

○コラボレートイベント

東野珠実の笙演奏「響きの絆ー可視・不可視の造形ー」&アーティストトーク

開催日:10月8日(日)18:00～19:00、10月14日(土)19:00～20:00

会 場 :フィボナッチタワー前

アーティスト:東野珠実・日詰明男 聞き手/伊藤彰教

音響デザイン:永井秀文

(3) 日本音楽公演「音楽のきずなシリーズ第9回」

(6,175,686 円)

公演名 : 「創造する伝統『音楽のきずな一声をつくる』」

主 催 : 財団法人 日本文化藝術財団

後援：文化庁、明治神宮、京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

開催日：平成19年1月20日(土) 午後3時開演 5時45分終演

会場：イイノホール

入場料：一般前売り 3000円(当日3500円)

大学生前売り 1000円(当日1500円)

高校生以下 500円

動員：460名

○実施概要

学校の音楽教育は西洋音楽を基本にしてきたので、長い間洋楽的な発声法を教えてきた。しかし民俗によって、また何をどう表現する音楽か、などによって、声の色が違い、発生法も異なっている、日本の伝統音楽も、もちろん洋楽的発生ではない。子供たちが「かごめ」など遊びながら歌っている声を想像してほしい。これが基礎である。ただ伝統音楽はジャンルによって表現したい方向が異なるので、それぞれ声の色が違う。それをどのようにしてつくり、洗練してきたのだろうか。実勢にその音楽を聞き、また演奏家にインタビューしてみたい。さらに独特の声を使う歌舞伎の名女方澤村田之助さんのご指導で実際に体験していただくので、楽しみにしていただきたい。(小島美子 パンフレットより)

この説明にあるように、公演では、伝統音楽の様々な声をきくだけでなく、女方の台詞を体験したり、諏訪大社の木遣り歌の掛け声を会場の皆さんと一緒に試みた。

企画監修：小島美子

舞台監督：清野正嗣 音響：音響プロデュース 永井秀文、(有)オアシス

照明：原 昌男 美術：滝 善光

プログラム(出演者・演目)

①催馬楽「安名尊」

歌：豊栄秋 和琴：池辺五郎

②信濃国一宮諏訪大社 式年造営御柱大祭 木遣り歌

下諏訪町木遣保存会

③山田流箏曲「熊野」

箏：鳥居名美野 箏：山下名緒野 三絃：山登松和

④新内節「蘭蝶」

浄瑠璃・三味線：新内伸三郎 浄瑠璃：新内剛士

上調子：岡本宮之助

⑤歌舞伎女方の台詞のお稽古

指導：澤村田之助

⑥長唄「勸進帳」

唄：東音宮田哲男、杵屋崇光、東音谷口之彦、東音野口悦至

三味線：杵屋五三郎、東音村尾慎三、杵屋五丈、杵屋五三吉

- (4) その他 (374,832 円)
- ホームページコンテンツの整理
 - 広報活動の強化
 - (ア) 記者・企業訪問
 - (イ) リリースの工夫
 - (ウ) 情報の整理
 - 「文化藝術の会」会員への定期報告